

日本共産党 青森市政だより

発行 日本共産党青森市議団
〒030-0822 青森市中央1-22-5 市議会日本共産党控室

連絡先

市議会日本共産党控室 ☎ 017-734-1111
(内線) 6017
直通・FAX兼用 ☎ 017-722-8904
メールアドレス kyousant@grace.ocn.ne.jp
日本共産党東青地区委員会 ☎ 017-777-7241

ご意見・ご相談をお気軽にお寄せ下さい。

議会報告



ヒイラギ



市民の願い実現のために 力を合わせてがんばります

消費税10%はキッパリ中止を 国民の聲が生きる政治へ くらし・雇用・農林漁業まもる経済政策を

左から、村川みどり市議、赤平ゆうと市議、藤原浩平市議、山脇さとし市議、天内しんや市議、万徳なお子市議（12月27日さくら野前にて）

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。今年も年明け早々、アメリカによるイラン空爆により、緊迫した世界情勢と争の危機を迎える中で、日本がすべきことは自衛隊を危険な地域に送ることではなく、憲法9条を生かした平和外交です。

市は「操車場跡地へのアリーナ建設を2025年の国民スポーツ大会までに完成させる」と急いでいますが、交通が不便な立地環境、莫大な整備費用など、市全体のまちづくりの観点からもっと慎重に検討する必要があります。

今年、青森市長選挙が行われ、解散総選挙も予想されています。日本共産党市議団は、市民のくらしと命を守る立場で、市民が主役の市政実現を目指し、全力で頑張ります。また、野党共闘をさらに前進させ、希望が持てる新しい政治の道を開く決意です。

日本共産党市議団では、メールや電話による、市政へのご意見や、地域や生活の困りごと等の生活相談の解決に取り組んでいきます。ご要望などがありましたら、いつでもお気軽にお寄せください。

発がん性が疑われる危険な除草剤「公園、霊園は不使用 学校もただちに使用中止を」

日本共産党は9月議会に続き、12月議会においても、市内小中学校各5校計10校での危険な除草剤の散布は、たちちに中止するよう求めました。

市教委は9月議会と同様に「小石が飛ぶなど児童生徒、近隣住民への被害が生じる危険がある場合は使用できる」と強弁。

村川みどり市議は、公園河川課等が草刈業務を委託する際の「特記仕様書」において、「作業前に小石・空き缶を除去し、周囲への飛散防止のため防護板やフェンスを使用する等対策をとり、事故のないよう十分注意すること」と明記されていることを紹介し、「小石が飛んで危険だから、発がん性のある除草剤を散布なんて、もつてのほか！市教委の対応は子ども達の身体をないがしろにするものであり許されない」と訴えました。

質疑のなかでは、市が管理している「公園」「ちびっこ広場」「市営霊園」の全てに除草剤は使用してはいけないことが明らかになりました。いよいよ市教委の姿勢が問われています。

時潮

首相主催の「桜を見る会」私物化疑惑が深まり、世論調査で、安倍内閣支持率が急落し、不支持が支持を超えはじめました▼安倍政権は、特定秘密保護法や「共謀罪」法をはじめ、違憲立法を次々と強行。立憲主義を破壊してきまされた。安倍政権のもとで壊された民主主義・立憲主義・平和主義を回復させるためにも、野党が結束して安倍政権に代わりうる野党連合政権の姿を有権者に示せるかどうか、が今、求められています▼戦争法に反対する市民と野党の共闘は、その後の国政選挙で大きな前進を果たして来ましたが。その前進は全国の首長選でも力を発揮。埼玉知事選、岩手知事選でも野党が統一候補で勝利し、高知知事選では、日本共産党の松本顕治氏が野党統一候補となり、大健闘するなど、野党共闘は新たな局面に入りつつあります▼野党が総選挙で「政治を変える」本気度を示すために連合政権づくりの話し合いを始めることを日本共産党の志位委員長が呼びかけ、話し合いは大きく進み始めました。これを実らせる年にしようではありませんか。



村川みどり

教員の変形労働時間制 「導入の前提ない！」

村川みどり市議は、教員の1年単位の变形労働時間制に対する認識と、この制度が教員の長時間労働の是正につながるのか質問しました。工藤裕司教育部長は

「この制度は業務の繁閑に応じて労働時間の配分を認め、集中して休日を確保することが可能となり、時間外や休日労働の減少による総労働時間の短縮が実現できる制度。教育委員会としては、学校における働き方改革の総合的な取組の一環として、国や県の動向を注視し対応を検討していく」と答弁しました。

万徳なお子 市民体育館や、サンドーム内に設置されているマシニング室が使えるトレイニング室は「利用料が安く、都度払いで利用しやすい」と、市民に大変喜ばれています。しかし、市民体育館の代替施設として、操車場跡地に建設がされようとしているアリーナ本体には、トレイニング室は設置されず、結果として市が運営するトレイニング室は減らされることがわかりました。万徳なお子市議は一般質問で「アリーナの働いている教職員がいる中で、この制度を導入する前提もなければ見通しもない」と教員への変形労働時間制を導入させてはならないと強調しました。



天内しんや

地域医療の実情を無視した 病院名の公表は撤回せよ

厚生労働省が、公立・公的病院の再編統合に向けた議論を促すとして、全国424の病院名を一方的に公表したことに、地方自治体などから厳しい批判が上がっています。厚労省の分析で、診療実績が少ないなどと判断した病院を公表したと言いますが、これは地域ごとの実情を踏まえたものとは言えません。全国一律の基準を設け、地方に押し付けようとしています。公立・公的病院のあり方は、住民の命と健康に直結する大問題であり、厚労省の姿勢に地

域の不安は高まるばかりです。天内慎也市議は、12月9日の一般質問において「青森県に対しては、10の公立病院を公表し、その中に浪岡病院も含まれており、地域医療構想に沿った市の方針や、地域の実情を無視したものと考える」とし、市の見解を質しました。

がん、脳卒中、心血管疾患などの『診療実績が特にな少ない』9領域全てとなつていて、または『類似かつ近接している医療機関がある』公立・公的病院について、再検証が必要であるとして、浪岡病院については、既に、精神神経科病棟を廃止、一般病床については92床から35床へとダウンサイジングしたほか、医療機能の見直しなど、地域医療構想の方向に沿った具体的対応を図ってきたところであり、今回の公表に先んじて、浪岡病院のあり方を整理



赤平ゆうと

事故が起きる前に、一日も早く 岡田橋に歩道橋設置を

油川地域の住民や北高校の生徒が、通勤・通学時に通る「岡田橋」は、両端に歩道がなく、歩行者や自転車が行く時、車道にはみ出なくてはいけなく、いつ事故が起きてもおかしくない危

険な通勤・通学路となっています。特に周辺の油川岡田地域に住む市民からは「子どもが小学校に登校する時に、岡田橋で事故に遭うのではないかと心配で、橋を渡りきるまで見ている」「北高校の生徒が通学時に車と接触したのを見た」という声も寄せられています。これまでも「悲惨な事故が起きる前に、早く岡田橋に歩道

いては、詳細設計と工事だということですが、いつまでに設置をするのかは答えませんでした。赤平市議はさらに「岡田橋歩道橋設置の緊急性について、市はどのような考えでいるのか」と質問。長井都市整備部理事は「自転車及び歩行者の交通安全を確保するために歩道橋設置は必要だ」と答弁。必要性については述べましたが、緊急性については触れませんでした。赤平市議は「残る作業に確実に予算をつけ、一日も早く歩道橋を設置するように」と訴えまし



新城川に架かる岡田橋

た。今後残る作業につ

市が運営する トレーニング室を 減らすな

事業を委託する事業者の公募にあつたの要求水準書(案)には、なせトレイニング室が掲載されていないのか」と質問しました。百田満経経済部理事は「トレイニング室は民間事業者に配慮して計画に入れていない」と答弁しました。

いわれる「しぼり」もあり所得が少ない市民には負担が大きい」と、実態を示し「市が運営するスポーツ室を減らすべきではない」と主張しました。スポーツ振興、健康づくりのためのアリーナ計画と言いつつ、市民の要望よりも民間事業者の利益を優先する市の姿勢は、利用料の取り扱いでも同様です。現在、市民体育館の利用料は市の歳入に繰り入れられていますが、アリーナ計画では利用料は管理運営を委託する事業者の収入にされます。その説明でも「民間事業者のモチベーション(動機づけ)のために」という文句が使われています。



藤原 浩平

市民の生活様式に合わせて、 小中学校のトイレの 洋式化改修を急げ

藤原浩平議員は、12月議会予算特別委員会、小中学校のトイレの洋式化改修について市の取り組み状況を質しました。市教育委員会は「今年度トイレの洋式化改修を実施する学校は、小・中合わせて18校になる」と答弁しました。

学校は次のようになっており、18校の校名を示しました。小学校は、浦町、千刈、油川、原別、浜田、幸畑、大野、筒井南、浪岡南、浪岡北の10校。中学校は、古川、沖館、油川、筒井、横内、戸山、北、三内の8校。



山脇さとし

アリーナ周辺の環境整備 市の試算より整備費 大きく膨らむ恐れ

山脇市議は12月議会の一般質問において、操車場跡地へのアリーナ整備について質問しました。山脇市議は6月の市議会において「アリーナの整備費用についてどの程度必要になると想定しているのか」と質問し、市は「アリーナ本体の整備費が約67億円。災害時の一時的な避難場所など、多目的に利用できる緑地や既存道路の拡幅などの周辺整備に約31億円を見込んでいます」と答弁しています。

周辺整備の費用31億円は民有地の買収などは全く試算されていない。今後市が示した整備費が大きく膨らむ恐れがある」と指摘しました。

山脇市議は「アリーナ本体の整備については、次々と具体化されていくが、周辺の環境整備については大まかな説明だけで具体的な説明が全くなされていない」と指摘し、広域の防災拠点として整備されることも考えれば、市の説明は無責任ではないか」と述べ、「アリー

ナが広域の避難所としても想定されている以上、周辺の道路など環境整備について具体的な計画がないままに本体の建設だけを先行させるのは、あまりにも無責任だ。2025年の国民スポーツ大会に合わせて建設を進めると市は説明しているが、アリーナが建設されることなく国体の開催には全く支障がないことはすでに明らかになっている。必要な費用をきちんと説明し、もっと広く市民の声を聞くなど、アリーナ整備についてはもっと慎重に検討する必要がある」と指摘しました。

不採択

学校給食無料化を求める請願 必要性は否定できず

今議会では「学校給食の無料化をめざす青森市民の会」から、市内の小・中学校の全児童・生徒の給食費を無料にすることを求める請願が提出され採決の結果、不採択となりました。

請願を採択することに反対の討論を行った公明党の赤木道義議員は「給食費が無料ではないことは、『義務教育は無償』と明記した憲法26条に違反しているわけではない。無料にするというのなら、国の責任で講じるべき」と主張しました。

しかし、国において実施すべきであるということは、学校給食費無償化の必要性を認識しているということではないでしょうか。実際、同党は2017年5月に国に対し、全小中学校の完全給食の実施と無償化支援を提言しています。

村川みどり市議は、請願の賛成討論で、国において実施すべきだというなら、1機116億円のF35ステルス戦闘機105機の購入を止めれば1・2兆円の財源が確保できること、秋田の配備予定だったイーシスアショア2基6000億円、輸送機オスプレイ17機3600億円など軍事費の一部を止めるだけで実現できることを強調。さらに「各自治体で無料化への動きを強めていくことが、国を動かす力にもなる」と訴えました。

無料化を市単独でやる場合は、小中学校で9億3000万円、小学校だけなら4・8億円、中学校だけなら4・5億円。1300億円の一般会計のうち0・7%の予算規模となります。本市と同じく中核市である明石市は、幼・保無償化で市が負担しなくてもよくなった財源7億円を活用し、中学校の給食無償化を実現しています。本市においても、その財源を充てれば、学校給食費の無償化実現の可能性がある見えます。

最後に「無料化の必要性を認めている全ての勢力で、青森市の学校給食費無料化を実現しよう」と呼びかけました。

小野寺晃彦市長は、12月4日の一般質問に立つた藤原浩平市議への答弁で、議会ルールを無視した、的外れで不当な発言をし、共産党を攻撃しました。

藤原市議の質問は、2017年に経営破たんし、現在、市が管理を引き継いだ「アウガ」の地権者に対し、市が支払っている地代の算定根拠を示すよう求めたものです。

再質問の冒頭藤原議員は、「共産党は、鹿内市政で与党ではなかった。政で与党ではなかった。

小野寺市長は、これに対する答弁に続き、突然「日本共産党が（当時の鹿内）市政与党として賃借料の無償化を実現できなかった責任を取るべきであり、与党であった8年間の『アウガ』の地代の差額を返納された上でご主張いただきたい」と「持論」を展開しました。

小野寺市長は、他会派の議員の答弁で「自分たちは与党ではない。是々非々だ」とわかりづらいつつ議論をした議員がいたと藤原議員を再度攻撃。翌5日には、「アウガ」

是々非々の立場で臨んできた。鹿内市政に対しては、地代の算定根拠が間違っていると言ってきた」と事実を示して反論。不当な発言をした小野寺市長を厳しく批判しました。

藤原議員は「市長の発言は、全く不当なもので、他の議員への答弁の中で私を引き合いに出すなど議会のルールを無視しており許せない」と表明しました。

市長不当発言―

「質問するなら金払え」

小野寺市長は、12月4日の一般質問に立つた藤原浩平市議への答弁で、議会ルールを無視した、的外れで不当な発言をし、共産党を攻撃しました。

藤原市議の質問は、2017年に経営破たんし、現在、市が管理を引き継いだ「アウガ」の地権者に対し、市が支払っている地代の算定根拠を示すよう求めたものです。

再質問の冒頭藤原議員は、「共産党は、鹿内市政で与党ではなかった。政で与党ではなかった。

小野寺市長は、これに対する答弁に続き、突然「日本共産党が（当時の鹿内）市政与党として賃借料の無償化を実現できなかった責任を取るべきであり、与党であった8年間の『アウガ』の地代の差額を返納された上でご主張いただきたい」と「持論」を展開しました。

小野寺市長は、他会派の議員の答弁で「自分たちは与党ではない。是々非々だ」とわかりづらいつつ議論をした議員がいたと藤原議員を再度攻撃。翌5日には、「アウガ」

是々非々の立場で臨んできた。鹿内市政に対しては、地代の算定根拠が間違っていると言ってきた」と事実を示して反論。不当な発言をした小野寺市長を厳しく批判しました。

藤原議員は「市長の発言は、全く不当なもので、他の議員への答弁の中で私を引き合いに出すなど議会のルールを無視しており許せない」と表明しました。

会派の態度

共↓共産党、自志↓自民志政会、自民↓自由民主党、市声↓市民の声あおもり、市ク↓市民クラブ、公↓公明党、無↓無所属 (○↓賛成、×↓反対、△↓一部賛成)

条例・意見書	共	自志	自民	市声	市ク	公	無
学校給食に関する請願 その一(小中学校の全児童・生徒の給食費を無料にすること)	○	△	×	×	×	×	×
学校給食に関する請願 その二(県に対して小中学校給食費の自治体への半額補助の実施を働きかけること)	○	△	×	×	×	×	×
厚生労働省による「再編統合を求める424の公立・公的病院名公表」の撤回を求める意見書	○	×	×	△	○	×	×
大学入学共通テストの記述式導入を中止し、大学入試改革の根本的見直しを求める意見書	○	×	×	○	○	×	○